



朴寿南さん

# 強制連行 そして被爆

朝鮮からの強制連行と被

焼。

た在日韓国・朝鮮人の叫びを

記録したドキュメンタリー映

画「わがひとのじロシマー

・アリランのうた」が神奈川

県茅ヶ崎市在住の女性作家、

朴寿南(パク・スナム)さん

(の手で完成、近く一般公

開される。韓国人被爆者の被

害も十一月で打ち切られ

る見通しで、それだけに、

「同胞たちが日本人に同化さ

れ、私が私であることを奪わ

れた歴史を流れることばかり

など」と、被爆前夜に焦燥

な書きをもつ。

在日朝鮮人二世の朴さん

は二十年以前から韓国・

朝鮮人被爆者の証言を聞き取

り、本音に迫ってきた。

のぼ、日本語を教へられ、

日本語を話す、たった一人、

広島で生き続っている。

登場する十四人の証言者

に、南北の差異はなく、朴さ

んは「被爆した同胞は、『カ

にねたものだ』三八度線はな

い」と言ふます」「どうや

り

回った。日本への強制連行囚

間の16

カラ一作品で、十日

午後六時半、東京豊島区西池

袋の労働福祉会館で試写会が

開かれる。朴さんは「四十年

たっても私は解放されで

ない。この映画を見て、人

間としても被爆された人々の

叫びを聞いてほし」と語る。

上映事務局は神奈川県横浜

市辻堂六一八八の二六、立岡

和代さん(0466・36・9

980)。

## 同胞の苦闘 映画に

在日朝鮮人家女性 在日朝鮮人家女性 作



本人が私を見る目は、人が人を見る目ではなかった。いつしが、そのままさじた私は殺され、(意識は)日本人になってしまった」といふことを思い出す。

朴さんは「ふざくして、私も自身を取り戻すために、彼女たちの存在を映像にしてしまった」ことを見出します。

韓国人被爆者の老女は画面から切々と訴える(「アリランのうた」から)

六十八歳で独り暮らしの老女は薄い布団に横たわり、「生を受けたから一度も楽しんで思ひをしたことがなかった」とあえきながら語った。十六歳で日本へ連れこまれ、さ

.....

上映事務局は神奈川県横浜

市辻堂六一八八の二六、立岡

和代さん(0466・36・9

980)。

て資金を作り、映画製作に乗り出しました。日本人のサラリーマンが「日本の教科書では本当のことが子供たちに伝わらない」と週報金から三百万円を寄付、其時の額が広がりましたが、製作費は三千万円を超えました。

朴さんは医師、長崎を駆け回った。日本への強制連行囚間の16カラ一作品で、十日

午後六時半、東京豊島区西池

袋の労働福祉会館で試写会が

開かれる。朴さんは「四十年

たっても私は解放されで

ない。この映画を見て、人

間としても被爆された人々の

叫びを聞いてほし」と語る。

上映事務局は神奈川県横浜

市辻堂六一八八の二六、立岡

和代さん(0466・36・9

980)。

.....

上映事務局は神奈川県横浜